ドライバーを活かす！
配車のコツ
Vol.4

「反時計回りルート」で安全かつ効率的に配送

効率の良い配送ルートを組むことは、配送担当者にとって永遠の課題です。荷主企業などからの多様なニーズに対し、安全を確保しながら無駄な費用を発生させないルートを組んでいかなければなりません。ではどういったルートを組むと良いのか？ 今回は、その代表的な例としてあげられる「反時計回り（左回り）」の配送について紹介します。

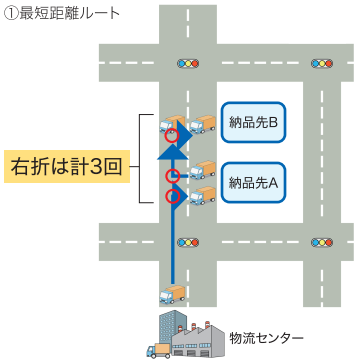
日本の交通事情にマッチした配送ルート

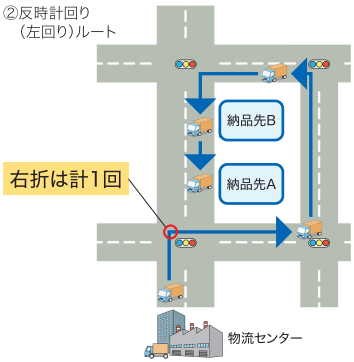
前回、“ドライバーの拘束時間（人件費）を最小化”することが、“効率の良い配送ルートの実現”につながり、そのためには「走行時間の最短化」、「運行中における待機時間の削減」の2つが必要であることをお話ししました。

ただし、その2点に固執しすぎると、速度超過など安全がないがしろになる恐れがあります。安全面の確保も考慮して、効率の良い配送ルートを組まなければなりません。

これらを踏まえた上で、最も効果的なのが「反時計回り（左回り）」のルートです。その理由を以下で説明していきます。

拘束時間と安全面を考慮した「反時計回り」のルートとは





上のイラストは、物流センターから納品先A、Bへ配送する際の「①最短距離ルートの場合」と「②反時計回り（左回り）ルートの場合」を表しています。

①は「最短距離＝走行時間の最短化」と考えたルートですが、右折回数が信号機のない箇所で合計3回となり、対向車の影響を大きく受けてしまいます。対向車が多い場合は右折ができず待機時間が増えるため、ドライバーの拘束時間の最小化はできません。また、事故のリスクも非常に高いと言えます。

一方で「②反時計回り（左回り）ルート」は、配送距離は長くなりますが、右折回数が信号機の1箇所のみであり、対向車の影響は最小限に抑えられます。また事故リスクも低くなります（ただし左回りの場合は、歩行者の巻き込み事故なども考えられるため、運転には十分に注意をしてください）。

以上のことから、「反時計回り（左回り）ルート」がドライバーの拘束時間と安全面を考慮したルート（効率の良い配送ルート）と言えるのです。これらを念頭に置き、日々効率の良い配車に努めてください。